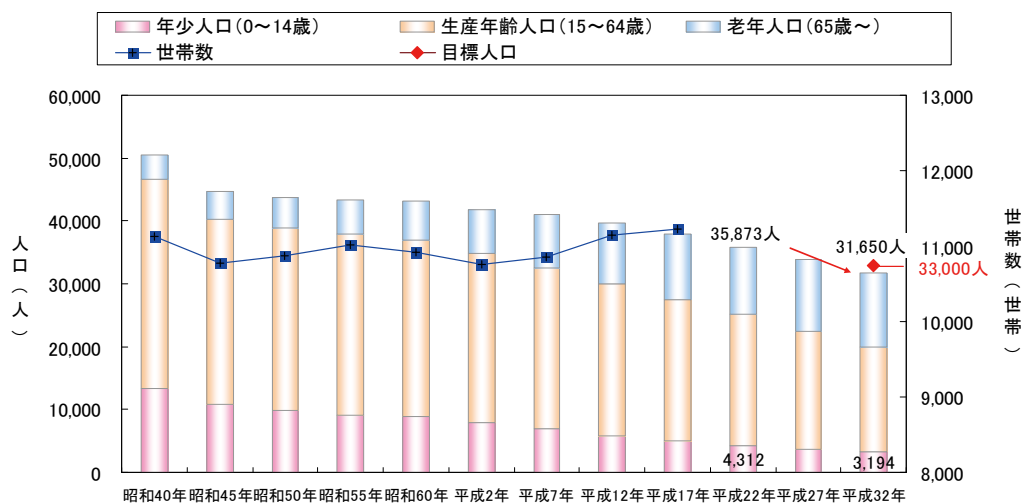


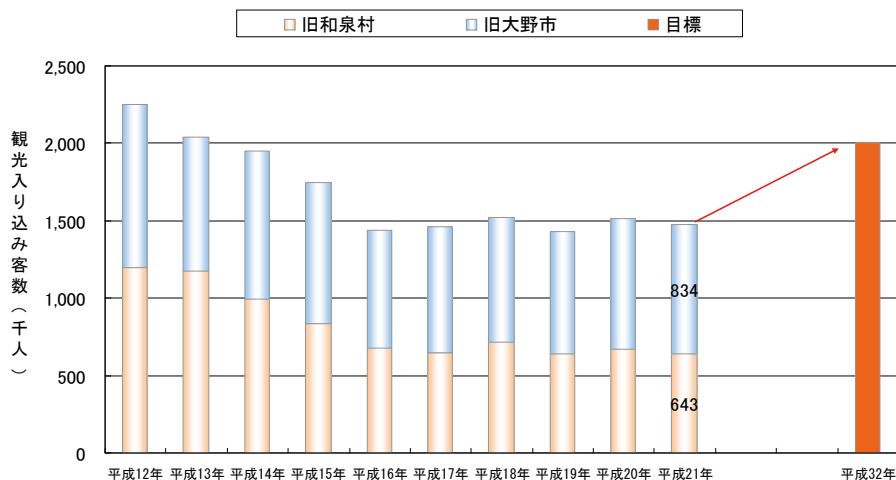
3-2. 人口フレーム

- 本マスタープランの上位計画である第五次大野市総合計画では、平成32年の目標定住人口を、国立社会保障・人口問題研究所が行った大野市の将来推計人口31,650人に対して、中部縦貫自動車道の一部供用開始や、国道158号、保健・医療・福祉サービス拠点施設などの整備による若者と元気な高齢者の人口増を見込み、33,000人と設定しています。
- 第五次大野市総合計画ではさらに、定住人口の減少が続く中で、地域の活力を支えていくためには交流人口の増加が必要であることから、人、歴史、文化、伝統、自然環境、食などの地域資源を磨きつつ有機的に連携させ、中部縦貫自動車道の一部供用開始など社会基盤を整えることで、観光入り込み客数を150万人/年(4,000人/日)から200万人/年(5,000人/日)に増加させ、定住人口33,000人に1日当たりの観光入り込み客数5,000人を加えた「ふれあい交流人口」の規模を38,000人にするとしています。
- 本マスタープランでは、中間年次(平成32年度)における人口フレームを、第五次大野市総合計画を踏まえ、定住人口を33,000人、1日当たりの観光入り込み客数5,000人を加えた「ふれあい交流人口」を38,000人と設定します。



人口・世帯数の推移と見通し

(出典: 国勢調査、平成22年度以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計)



観光入り込み客数の推移と見通し (出典: 観光振興課)

3-3. 都市づくりの基本姿勢

- これからの大野市では、核家族化による世帯数の増加を考慮しても、市全体での住宅需要の増加は見込み難く、市街地（住居系用途地域指定区域など）を拡大する必要性は小さいと考えられます。
- 第五次大野市総合計画では、人口減少に伴う大野市の活力低下を観光客の増加などで補うことを掲げており、市民が心豊かに暮らせることはもちろんのこと、市外の人を訪れたいくなるまちづくりが重要になります。そのため、中部縦貫自動車道の整備効果を最大限に生かせるよう、中心市街地や郊外レクリエーション拠点などの魅力の強化や訪れやすくする交通環境の改善など、観光交流の活性化を意識した都市づくりを進めることが重要です。以上のことを踏まえ、大野市の都市づくりの基本姿勢を以下のように定めます。

基本姿勢

(1) 人口減少時代に対応できる維持・管理コストの少ない機能集約型の都市づくりを行います。

①暮らしに必要な様々な機能が集まり、住みたいと思う市街地の形成

- 行政サービスをはじめ、商業などの暮らしに必要なサービス機能を確保するため、中心市街地にその機能を集めます。また、市民の暮らしがより安全・安心で、豊かになるよう、保健・医療・福祉などの機能の充実に努めます。
- 人口が減少する時代に対応できるよう、維持・管理コストを抑えるため、市街地を拡大せず、既存の施設を有効に利用します。

②中心市街地と集落を結ぶ道路ネットワーク、まちなか観光拠点と郊外の観光拠点を結ぶネットワークの形成

- 市民の生活空間を確保するため、中心市街地と主要な集落を結ぶネットワークづくりを行います。
- 今ある資源に磨きをかけ、中心市街地と郊外観光拠点の回遊が生まれる移動しやすいネットワークづくりを行います。

③住み慣れた地域で住み続けられる公共交通などの確保

- 住み慣れた地域で住み続けられるよう、移動制約者*などが暮らしに必要な移動手段の確保に努めます。

(2) 市民が誇りを感じて住み続けたいと思い、市外の人が訪れ、移り住みたいと思う、個性を生かした都市づくりを行います。

①歴史や文化、伝統、自然環境などの資源の有効活用

○大野市には、来訪者がすばらしいと感じる、歴史資産や自然環境資源が数多くあります。多くの人が大野市を訪れ交流が育まれるよう、歴史や文化、伝統、自然環境などを生かした都市づくりを目指します。

②中部縦貫自動車道の整備効果を生かした都市づくり

○市域では、中部縦貫自動車道の整備が進められています。この道路により、大野市と関東圏が最短距離で結ばれ、北陸圏や中京圏との広域ネットワークが形成されることで、観光客の誘致や企業立地が期待できます。また、地震など災害時の緊急輸送や救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保など、市民の生活にとって「生命の道」「生活の道」「希望の道」であり必要不可欠な道路であります。中部縦貫自動車道永平寺大野道路及び大野油坂道路の早期の全線開通を、関係機関に強く働きかけていくとともに、中部縦貫自動車道の整備効果を生かす都市づくりを行います。

○中部縦貫自動車道を利用する人が、大野市の観光スポットや歴史、食文化などに興味を持ち、気軽に訪れることができるよう、越前おおのまるごと道の駅[※]構想の核となるパーキングエリアを誘致し、中心市街地や主たる観光施設への円滑で快適な移動を確保するため、移動手段など総合的な整備を図ります。

③市民が住み続けたいと思い、来訪者が住んでみたいと思うまち

○大野市独自の生活や文化に合わせて築きあげられてきた町割りや伝統的な町家などが連なる古いまち並み、生活必需品を気軽に求められる身近な商店街、自然の恩恵を受けている水やおいしい農作物、人情味あふれる市民性は、大野市に住み続けたい、来訪者が移り住みたいと思う重要な要素です。この恵まれた環境を市民や来訪者が実感できる都市づくりを行います。



越前大野城からの市街地



中部縦貫自動車道大野油坂道路の
くい打ち式

3-4. 将来都市構造

- 第五次大野市総合計画の将来像「ひかりかがやき、たくましく、心ふれあうまち」を実現するため、大野市の土地利用は、①大野の特性を生かした土地利用、②自然と共生する土地利用、③安全で快適な土地利用を目指し、総合的かつ計画的に土地利用を進めます。
- 大野市は、なだらかな地形の盆地地域と急峻な地形の山地地域から構成されています。大野市の地形や特性を生かした都市づくりを進めるため、骨格的な土地利用の区分を示す「地域とゾーン」、その中の特徴ある土地利用を示す「拠点」、人・物・情報などの活発な動きを示す「交流軸」を定め、基本方針を以下のように設定します。

(1) 骨格的な土地利用

		基本方針
山地地域	森林ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 急峻な地形からなる森林ゾーンには、国立公園や県立自然公園があります。環境保全や防災、地下水の重要な供給源など多くの機能を有する森林資源の適切な保全管理に努めます。
	自然型観光レクリエーション拠点	<ul style="list-style-type: none"> 六呂師高原、宝慶寺、麻那姫湖、九頭竜湖の周辺などを自然型観光レクリエーション拠点として位置付けます。 市民や来訪者が憩いのひとときを過ごせるよう、豊かな自然環境を生かした観光レクリエーションや交流の拠点として、魅力を強化します。
盆地地域	田園ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 市街地を取り囲む田園ゾーンは、大型店をはじめとする大規模集客施設の規制や宅地開発を極力規制し、農地の保全や田園集落を維持し、心が癒される美しい田園景観づくりを促します。
	市街地ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 現在用途地域に指定されている地域を市街地ゾーンとして位置付けます。 奥越地域の中心都市としての都市機能が集積する拠点及び市民生活を支える各種都市機能の集積する拠点としての都市づくりを図ります。

※山地地域は都市計画区域外、盆地地域は都市計画区域内(5,251ha)を想定
 田園ゾーンは用途地域外、市街地ゾーンは用途地域内(642.4ha)を想定

(2) 交流軸

軸	基本方針
広域交流軸	<ul style="list-style-type: none"> ・人や物、情報、資本の流れを都市づくりに生かすため、中部縦貫自動車道と国道 158 号を広域交流軸と位置付け、中京圏などとの広域的な交流と連携を促進します。 ・中部縦貫自動車道と 5 カ所のインターチェンジの整備を促進します。
地域交流軸	<ul style="list-style-type: none"> ・広域交流軸と一体になり、人や物、情報、資本の流れを都市づくりに生かすため、国道 157・158 号を地域交流軸と位置付け、福井市などとの交流と連携を図ります。 ・国道 157・158 号の整備を促進します。



市街地ゾーン
(七間通り)



田園ゾーン
(乾側地区の花のジュータン)



森林ゾーン
(九頭竜湖)

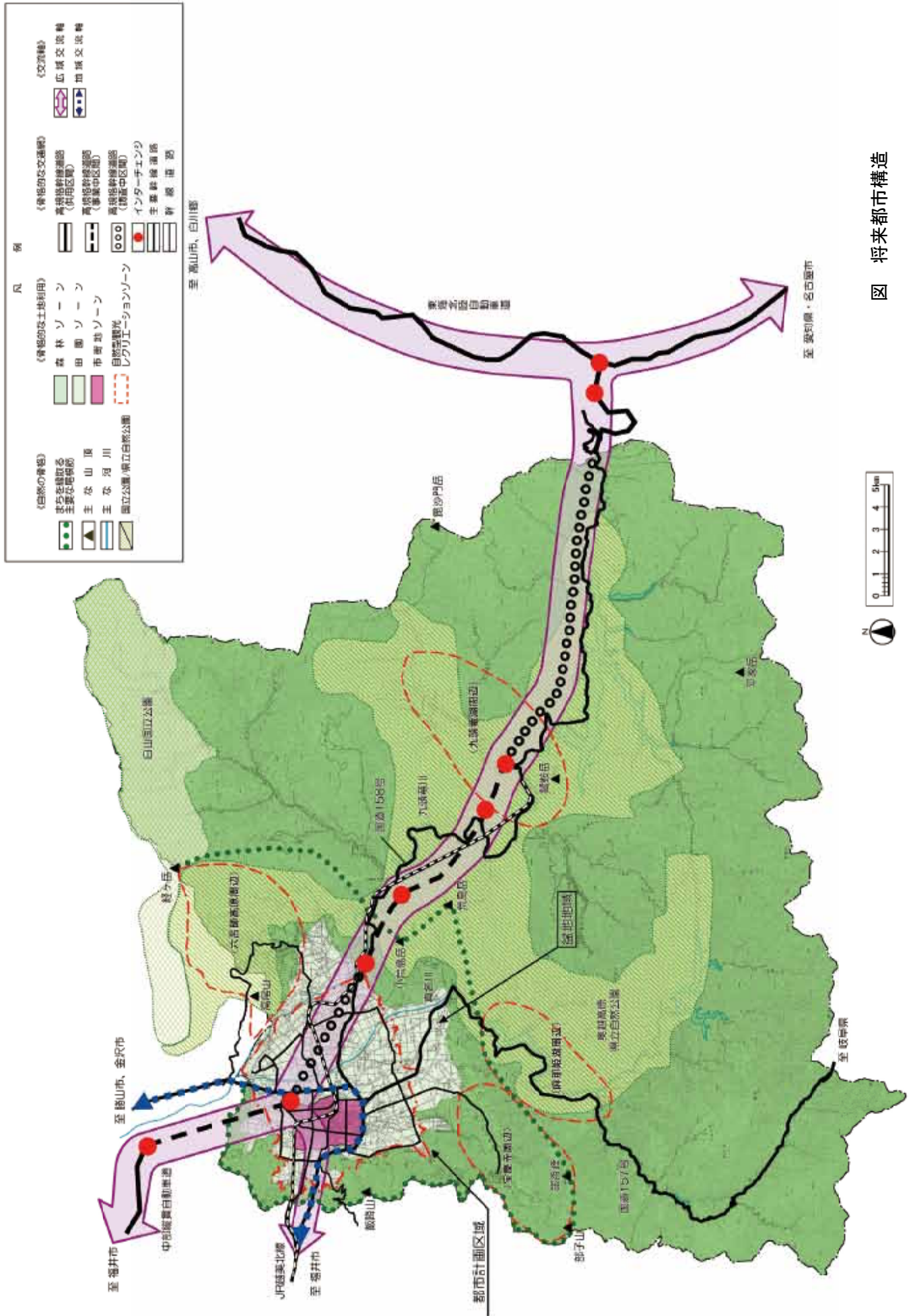


図 将来都市構造